8/2(日）第3回区民ワークショップ

「あなたとつくる、未来の中央図書館」

「ミーティング空間」について考えよう

ヨコムスンの公共図書館の四空間モデル

発信する創作のための
「パフォーマティブ空間」

自律的な学びのための
「ラーニング空間」

他者と出会うための
「ミーティング空間」

文化的刺激を受ける
「インスピレーション空間」

「あなたが見知らぬ人と

自然に話せた場所は

どこですか？」


虫とり

「ミーティング空間」が生まれる6つのキッカケ

① **共通項**　　同じもの・目的・体験

② **媒介物**　　本・犬・音楽・子ども・商品など

③ **偶然**　　隣り合う・待つ・たまたま

④ **余白**　　急いでいない・リラックス

⑤ **逃げ道**　　話さなくてもいい・離れてもいい

⑥ **役割からの解放**　ただの自分でいられる

「ミーティング」は促進させようしても

うまくいかない。

それは、たまたま「起きる」、

「起こりうる」こと。

仮 説

ミーティング
「出会いを促す」のではなく、

「出会いたくなったときに、それができる」

ことが大切なのではないか

話しかけてもいい。

でも、話しかけなくてもいい

「ミーティング空間」が生まれる6つのキッカケ

① **共通項**　　同じもの・目的・体験

② **媒介物**　　本・犬・音楽・子ども・商品など

③ **偶然**　　隣り合う・待つ・たまたま

④ **余白**　　急いでいない・リラックス

⑤ **逃げ道**　　話さなくてもいい・離れてもいい

⑥ **役割からの解放**　ただの自分でいられる

「ラーニング空間」（前回）のまとめ

単に正解を覚える受動的な状態から、

「なぜ違うのか」を考えて、知識を自分のものにする能動的なプロセスへ切り替わる瞬間

こそが失敗の価値

→ **「安心して失敗できる状態」**

こそがラーニング空間に重要なのでは

失敗しても、いい。

嫌だったら、逃げていい。